

移動式ICTユニット (MDRU) の概要

別紙

「移動式ICTユニット(MDRU)」とは

災害時に被災地へ搬入して迅速に通信ネットワークを応急復旧させることが可能な通信設備。東日本大震災での教訓を踏まえて総務省が委託して研究開発(2012～2013年度)を実施し、実用化。

車載型、アタッチケース型等の小型化に対応。

今回、ITUではアタッチケース型ユニット3台の導入を決定(今度更なる導入が期待される)。

※(英語名)MDRU: Movable and Deplorable ICT Resource Unit



ICTユニットの主な特徴

- 地上回線、衛星回線と接続可能であり、被災地に持ち込み、簡単にWi-Fiネットワークと情報処理サーバを提供可能。
- 普段使っているスマートフォン・電話番号で、音声通話やデータ通信(メール、ファイル共有、インターネット接続)が可能(最大半径1km、数十台接続可能)。
- 車載型やアタッチケース型に小型化され、持ち運び(ニーズに応じた入替え)が可能であり、商用電源がなくてもバッテリーで動作。

アタッチケース型ICTユニット

ユニット本体



ゲートウェイ



Wi-Fiアクセスポイント



バッテリー



車載型ICTユニット



ユニット本体(サーバ/交換機)、Wi-Fi基地局、FWA固定無線装置、発電機を搭載

コンテナ型ICTユニット

